



令和2年5月22日
佛敎大学附属幼稚園

「仏敎保育6月のねらい」
生命尊重

「できることに感謝して」

園長 佐藤和順

通園どころか外出も控えなければいけない状況下で、子どもも戸惑いや、「自粛疲れ」という言葉に代表されるように疲れを感じているかもしれません。一人ひとりの努力がようやく実り、少しずつではありますが、収束に向けて動きはじめています。

今月の保育の目標は「生命尊重（せいめいそんちょう）生きものを大切にしよう」です。自分の生命を大切にすることと同様に、他の人間および人間以外のすべての生物の生命を大切にしようという考えです。仏敎の中心的な考え方であり、子どもの情操に大きな影響を及ぼすことです。鳥や花、野菜、ダンゴムシなどの昆虫に至るすべてのものに生命はあり、それぞれに尊いものであるということを実感してほしいと考えています。私自身の保育や教育を振り返った時に、どちらかという自らの生命、他の人間の生命というより人間以外のすべての生物の生命を大切にすることと重点をおいていたように思います。医学が発達した現代の社会では、若年者や健康であれば、生命の危険を実感することは、稀であったからです。今回の新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、自らの生命、他の人間の生命の大切さを痛感することとなりました。園児も子どもなりに大変な病気ということを理解して、考え、対策等を実践していることと思います。

一方で、緊急事態宣言下においても、観光や遊びに出て、批判が噴出したこともありました。ある日、民放のアナウンサーが次のような発言をして、注目を集めました。

「この新型コロナウイルス感染防止も大切な命を守る行動です。今、緊急事態宣言を受けて自分を律している人ほど、観光や遊びに出ている人を腹立たしく思うかもしれません。しかし、皆さんのような人たちがいるからこそ、医療崩壊を防いでいます。今は皆の足並みが揃わなくても、その姿勢は必ず誰かの行動を変えるはずで、そして全国にはまだ感染者の少ない地域も多くあります。不用意に生活エリアを越えた移動をしないこと。これが、誰かの故郷を守ることに繋がります。」

この言葉はまさに自分と他の人間の生命の大切さと心がけるべきものを指し示めていると思います。園生活も少しずつ戻り始めますが、保育も行事を含め、すべて以前のようにというわけにはいきません。新しい園生活の様式が求められているのです。できないことを不満に思わず、できることに感謝して、子どもの安全を第一にゆっくり進んでいければと願っています。